

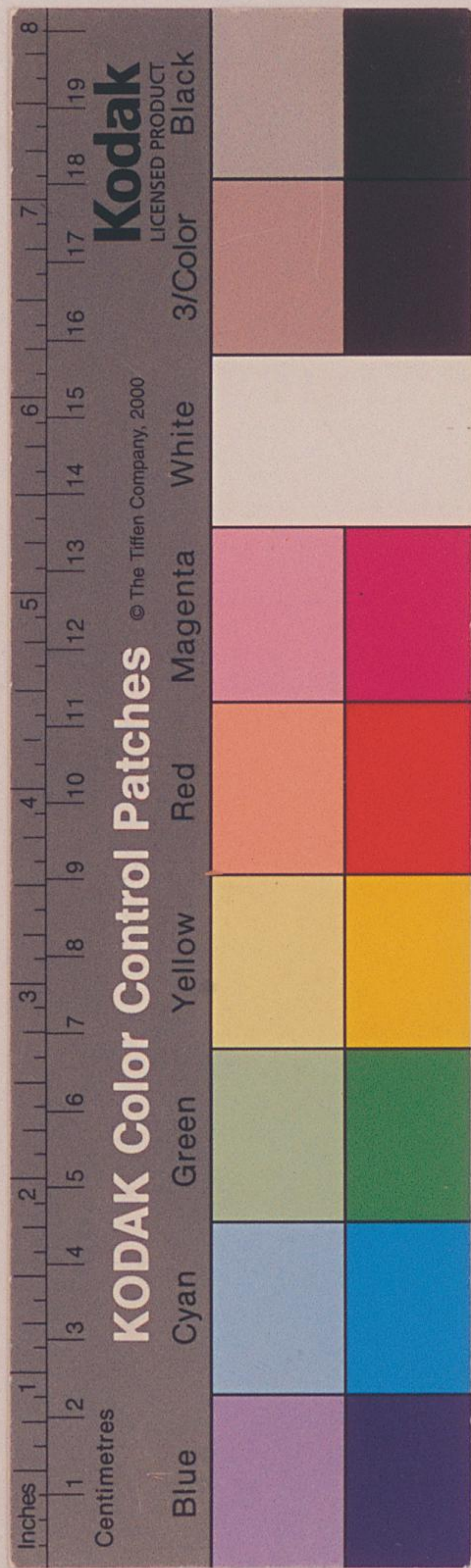
琉球大学学術リポジトリ

恩賜財団奨學會『日の光』第十號

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 矢内原忠雄, 南洋, 恩賜財団奨学会, 日の光 キーワード (En): Yanaihara Tadao 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38137

矢内原忠雄文庫

史料名	恩賜財団奨學會『日の光』第十號 昭和六年十一月二十五日發行
封筒番号	280
原文所所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成 17 年 11 月 16 日
撮影者	富士写真フイルム 株式会社
備考	



1/10

、白金、金、銀等の産額（サンガク）が多く工業は大仕掛の機械力を用いて製鐵、造船、紡績（ボウセキ、いとをつくること）、製粉（セイファン、めりけんこをつくること）、製糖、機械製造等の事業を盛に行つています。交通は鐵道が四十萬キロメートルもしかれ、速さも世界一と云はれています。主な鐵道は太平洋岸と大西洋岸をつらねたもので五つの東西連絡線があります。又國の中央部を南へ流れるミシシッピー川は本流、支流共に船便がよく、其の北には大きな湖水（コスイ）がいくつもあつて、これ等を運河で結びつけ、水上の交通がいたつて便利である。海上の交通は大西洋がわにニューヨーク、ボストン、大西洋がわにはサンフランシスコ、ロスアンジェルズ等の良港があるので、世界の各地へたえず船が往來しています。サンフランシスコは日本の横濱に似（ニ）た

市で、港のために發達したところですが、ここから大陸横斷鐵道（タイリクオウダンテツドウ）で東へ進むと、大盆地を過ぎ、ロッキーマウンテンをこえて、アメリカ大平野に出ます。この國の開けているところはこれから東で、大きな市がたくさんあります。やがてミシガン湖のそばのシカゴにつきます。農産物の大市場で工業も盛であり、人口三百萬もある大都市です。シカゴから東には多くの工業市があります。これ等の市を過ぎて大西洋岸に出ると、ニューヨークにつきます。人口六百萬餘、イギリスのロンドンと共に世界の大都市で、諸外國との商業取引が盛なところですが、ニューヨークから南へ進むと首府ワシントンがあります。きれいな市で、大きな役所があります。アメリカ合衆國の北にはイギリスの領地であ

るカナダがあります。土地は廣いが北部は寒さがきびしくて、用をなましませぬ。しかし南部のアメリカ合衆國に近い方は、産業が盛で、たら、にしん等の水産物、木材、ニッケル等を多く産します。アメリカ合衆國との間には、世界第一のナイヤガラの瀧があります。アメリカ合衆國の南には、銀、石油を多く産するメキシコ國があります。メキシコの東方大西洋中には西印度諸島があつて、さとうきびを多く栽培しています。メキシコから南は土地がせきくなつて、大西洋と太平洋にはさまれています。こんな地形を地峽（チキョウ）と云い、ここをパナマ地峽とよんでいます。近年このパナマ地峽をきりひらいて運河が開通し、太平、大西洋の水をつらねることになりました。これが有名なパナマ運河で、この運河の開通によつて世界の航路が非常に短（ミジカ）くなりました。

パナマ地峽から南へ進むと南アメリカに入ります。南アメリカには十箇の獨立國（ドクリツコク）がありますが、何れもアメリカ合衆國のようにはまだ進んでいません。南米の西にはアンデス山脈が高く南北に走り、東にはアマゾンの大川が流れています。この川の流れている地方には大森林があり、近ごろゴムをとることが盛になつてきました。この邊（ヘン）は南米の大國ブラジルですが、この國の南部ではコーヒの栽培が甚だ盛で日本人も多く來てこの仕事をしています。ブラジルの南にはアルゼンチン國があり、氣候もよく、小麦、羊毛、肉類を多く産します。ブラジルのリオデジャネイロと、アルゼンチンのブエノスアイレスとは、共に首府で良港であり、南米での大都會です。アンデス山脈の西には南北に細長いチリ國があります。地震（ジシン）、火山の多い國で確

石(シヨウセキ)を産します。
首府サンチャゴの西北にバルパライソの良港
があります。ここから船に乗り大陸西岸の諸
港を通り日本をかえることにします。
(をわり)

●土 壤 (トジョウニツチ) 四

コロール公學校 ス ガワラ
土壌ワ植物(シヨクブツ)ノ家デアル。
作物(サクモツ)ガ肥料(ヒリョウニコヤシ
)ヲ吸收(キユウシユウ)シテ生
育(セイイク)シテ行クニハ土地(トチ)即
(スナワチ)土壌ノ必要(ヒツヨウ)ナコト
ワ前號(ゼンゴウ)ニヨツテオ分(ワカ)リ
ニナツタコトデシヨウ。ツマリ作物ノ大切
(タイセツ)ナ養分(ヨウブン)ニナル肥料ワ
、スベテ土壌ノ中ニアツテ十分ニ腐熟(フジ
ユク)クサル)シ、ソレガ水ニトケテ土粒
(ドリユウ)ツチノツブ)ノ間ニ含(フク)マ
レテイテ、ユルユルト作物ニ吸(ス)イトラ
レテ始(ハジ)メテ役(ヤク)ニ立ツノデス
。デスカラ作物ニワ土壌ガナクテワナリマセ
ン。トコロガ土壌ガ作物ニトツテ、ナクテワ
ナラス大切ナ理由(リユウニワケ)ガ、マダ

一ツ外(ホカ)ニアリマス。ソレワ作物ニ限
(カギ)ラズ、スベテノ植物ガドンナ雨ニモ
風ニモマケズニツツ立ツテ伸(ノ)ビテ行ク
コトノ出来ルノワ、ソノ根(ネ)ガアルタメ
ニ相違(ソウイニチガイ)アリマセンガ、ソ
レヨリモソノ根ガ、シツカリトツカマルコト
ノ出来ル土壌ガアルカラデス。コノヨウニ土
壤ワ作物ノ肥料ヲ貯(タクワ)エル大切ナ所
デアリ、又雨ノ日モ風ノ日モ安心(アンシン
)シテイルコトノ出来ル大切ナ所デス。恰
(アタカニ)チヨウド)モ土壌ワ作物ニトツテワ
、私共ノ家ニアタル大切ナモノデス。
土壌ノ種類(シユルイ)
私共ノ家ニコンクリート造(ツク)リ、煉瓦
(レンガ)造リ、日本式木造(ニホンシキモ
クヅウ)、和洋拆衷ノ文化式(ワヨウセツチユ
ウノブンカシキ)ノ造リ方ト言ツタヨウニ色
々(イロイロ)ノ形式(ケイシキ)ガアリ、

ソノ中ニモ亦(マタ)大變任(ス)ミ心地
(ココチ)ノヨイ家モアレバ、マヅイ家モアル
ヨウニ、土壌ニモ色々種類ガアリ、作物ニト
ツテヨイノモアレバマヅイノモアリマス。
今ソノ種類ノ大体ニツイテ話シテ見マスト、
一、砂土(サド)コレワ土壌ノ大部分(ダイ
ブブン)ガ砂(スナ)カラ出来テイル土壌
デ、耕(タガヤ)スニワ容易(ヨウイ)ニタ
ヤスイ)デ結構(ケツコウ)デスガ、肥料
ガ流失(リユウシツ)ナガレテナクナル)
(ケツテン)ガアリマス。
二、埴土(シヨクド)コレワ大部分粘土(ネ
ンド)カラ出来テイル土壌ヲ言ウノデスガ
、コレニワ粘性埴土(ネンセイシヨクド)
トイッテ、粘(ネバ)リケガ強(ツヨ)ク
耕シ難(ニク)イノト、不粘性埴土(フネ
ンセイシヨクド)ト言ツテ、粘リ氣ガ弱(

ヨウ)ク乾ケバ砂土ノヨウニナリ、大雨ニ
アエバ泥(ドロ)ノヨウニナルモノトアリ
マス。

三、壤土(ジヨウド)コレワ砂ト粘土トガ略
々(ホボ)半々(ハンハン)半分ヅツ)ニ
混(マジ)ツテイル土壤デ、耕スニ困難(コ
ンナン)デナク、肥料ヤ水分ヲヨク吸收

保蓄(キユウシユウ)ホチク||スイトツテタ
クワエルコト)シ作物ガヨク生育シマス。
四、礫土(レキド)、コレワ礫(レキ||コイシ
)ガタクサン混ツテイル土壤デス。

五、腐植土(フシヨクド)、コレワ腐植質(フ
シヨクシツ)ト言ツテ植物ノ莖葉(クキヤ
ハ)ヤ、動物ノ死体(シタイ||シガイ)ナ
ドノ腐(クサ)ツテ出来タモノヲ多量(タ
リヨウ||タクサン)ニ含ンダ土壤デアリマ
ス。

コノ四及ビ五ノ土壤ワドチラモアマリ良(

ヨ)イ土壤デワアリマセン。
尙(ナオ)此ノ外(ホカ)ニソノ混ツテイル
土壤ノ割合(ワリアイ)ニヨツテ壤質砂土(

ジヨウシツサド)トカ、埴土(シヨクシ
ツジヨウド)トカ言ウヨウニ色々ニ區別(ク
ベツ)シテイマス。
ソコデコレラノ土壤ノ中デドレガ一番(イチ
バン)ヨイデシヨウ。トコロガコレワ簡單(カ
ンタン)ニドレガヨイト言ウコトワ申サレ
マセン。何故(ナゼ)ナラバソレワコレラノ
土壤ニソレゾレ特長(トクチヨウ||ヨイトコ
ロ)ガアルカラデス。又其ノ土地ノ氣候(キ
コウ)即チ暑(アツ)サ寒(サム)サ、雨ノ多
少(タシヨウ)、風ノ強弱(キヨウジヤク)、
ソレニ作物ノ種類ナドニヨツテ色々ニ違(チ
ガ)ツテ来ルカラデス。シカシナガラ大体(チ
ダイタイ)ニ於(オイ)テ、普通(フツウ)ノ
作物ヲツクルノニヨイワ壤土デアリマス。

土壤ト作物、

作物ヲ立派(リツバ)ニツクリ、收穫(シユウ
カク||トリイレ)ヲ澤山(タクサン)ニシヨ
ウトスルニワ、土壤ヲ選(エラ)ンデカカル
コトガ大切デス。何故(ナゼ)カト言ウト、
作物ノキライナ土壤ニイクラ世話(セワ)ヲ
シテ作(ツク)ツテ見テモ骨(ホネ)ガ折(オ
オ)レルバカリデアマリ役(ヤク)ニ立チマ
セン。コレト反對(ハンタイ)ニ作物ノ最(モ
ット)モスキナ土壤デ作ツタナラバ、餘リ
骨ヲ折ラズトモヨクナリマス。

ツマリ作物トコウモノワ土壤サエアレバ何處
(ドコ)ニデモヨク出来ルモノデナク、又甲ノ
作物ヲツクツテヨイカラトイツテ乙ノ作物ヲ
ツクツテモ同(オナ)ジヨウニヨイトユウコ
トワナイノデス。ソレデワ或(アル)作物ヲ
作ロウト思ウガソレニ適(テキ)シタヨイ土
壤ノ地面(ヂメン)ガナイトキニワドウスル

カ。コレニワ土地ノ改良(カイリヨウ)トアラ
タメテヨクスル)トユウコトヲヤレバヨイノ
デス。即チ砂ガ多クテイケナイ土壤ナラバ埴
土ヲ加(クワ)エテチヨウドヨイヨウニスル
トカ、粘土ガ餘(アマ)リ多イトキニワ其ノ
土壤ヲ燒(ヤ)イテ粘リ氣ヲ少クシタリ、又
ワ砂ヲ混ゼテチヨウドヨイヨウニスルトカ、
或(アルイ)ワ又腐植質ガ足(タ)リナイト
キニワ腐植質ヲ混ゼテ、其ノ作物ノ生育ニ適
シタ土壤ニ變(カ)エテヤルノデス。農業ニ
従事(ジユウジ)スル者(モノ)ワ、常(ツ
ネ||イツモ)ニコノ作物ト土壤トノ關係(カ
ンケイ)ヲ先(マ)ヅヨク考(カンガ)エテ
、作物ヲ栽培(サイバイ)ニツクル)シテ行ク
コトガ大切デアリマス。

(オワリ)

●美しい心の話

サイパン公學校 クリモト

卒業生諸君。

皆さんが、公學校で國語讀本を習つた時に、卷三の中に美しい心とゆう所のあつたのをおぼえてゐるでしょう。

あの中に、「私」と書いてあるのわ、山口百次郎とゆう人のことで、山口さんわ、今も丈夫でサイパンに暮して見えます。

私は一日その山口さんをお尋ねして、其の頃の話聞いてきました。

お話の内容を聞いて見ると、たしかに人として心に感ずることがあると思ひましたから、これを卒業生諸君にお傳えしようと思つて筆をとりました。

一度卷三の美しい心の所を讀んで見てから、私の文を讀んで下さると、都合がよいかと思ひます。

八

山口さんわ、始め小笠原島に住んでゐたのだそうですが、よい仕事がないので菊池甚右工門とゆう人と二人で何かよい仕事を見付けようと相談してゐる時、或人がアグリガン島を借りることになつて、番人をさがしてゐるとゆう話を聞いて、その人にたのんで、アグリガン島に渡つたのだそうです。二人の乗つて來た船わ、外の島に用があつたので、三月目にわ、又來るからといつて南京米や、みそその他の食りようをおいてしゆつぱんしたそうです。

其の頃アグリガン無人島であつたので、島でわ唯二人きりだつたそうです。

別にきめられた仕事もないので毎日毎日色々な話をして日を送つてゐたそうです。その話のたねもつきて、だまつて暮す日もあつたそうです。

たいくつのあまり、そこらあたりの平地を

かいこんして、椰子の實を植えたりなどしたそうです。

(その椰子の木は今でわ立派に大きくなつて、實がたくさんなるとゆう事です)

一月たち、二月たつて食りようがあともう一月だなどゆう事に氣がついた時わ、急にさびしい心になつてもうそれからわ、仕事もしないでごはんも三度の所を二度にして暮す事にきめたのだそうです。

所が待ちかまえた三月目がきても船わこない。食りようわのこり少ない。

そこでいよいよ食りようのせつやくを思ひ立つて、それからわごはんをたかないで、かゆを食べる事にし、尙島の中から外の食りようをとる事にしたのだそうです。

丁度その頃わ、暴風のあとでパンの實わないので、さかなをとる事にしたのだそうです。すが針がないのでくぎをまげて針とし、か

にのえさでさめをつつたのだそうです。

そのさめを火でかわかし何度も何度も食べたとゆう事です。

そんな事をしてゐる中に、とうとうお米はなくなつてしまつたそうです。

そうなる時さびしい心が胸一ぱいにこみあげてきて、色々な物思に毎日毎日ため息をついてばかりゐたのだそうです。

ああこのままうえ死をしてしまうのか知らん——

——死んでしまつたら、國に残した妻や子はどうなるだらう——

それを思うと立つても居てもゐられなかつたそうです。

そして毎日毎日海の方ばかりをながめて、若しや助けの船でも來ないだらうか。

若しも船が來たならば、ここにうえ死をしかけてゐる日本人がゐる事を知らせようと

九

ゆうのやさしいわい持つて居つた日の丸の旗を出して長い木にしばつて、いつでもあいつの出来るように待ちかまえてゐたそうです。

そよ風の吹く朝、夕日の沈む夕、小さな雲のはしきれを見てわ、助けの船でないかと、何度とびたつたか知れなかつたとゆう事です。

けれども船らしいものわ少しも姿を見せません。

もうたべるお米はなし、さめも思うように取れない。いたし方なくババイヤの若い木の根をはつてたべてゐたそうです。

(ババイヤの根はちよつと内地の大根をたべるやうな味がするそうです)

死の最後が近づいたのです。

こんな時には、もう心の中にわ何んにもないそうです。

「然しここに居つても死ぬ。海に出ても死ぬ。死ぬ事わ一つだ、どうです一つどきようを出して渡る事にしようじやありませんか」

二人の相談がまとまりましたから早速ボートは修繕する。南京ぶくろを二枚あわせてほをつくる。そうして波のわりあいにならずかたとゆう午後から夜にかけて渡ることにして或日の午後三時とゆうのにアグリガンをあとにして、ほをあげたとゆう事です。しんばいしたほどもなく、途中わ波もしづかで翌日の十時頃バガン島のそばに來ると海岸に島民がたくさん出て來て、何かたいへんさわいだそうです。二人が岸につくと、どうしたのだと色々たづねたそうですから、今までの事を話すとたいへんおどろき且つよろこんで、私等がだいじにしてやるからしんばいしないでゐなさいと話して

ただもう人がこいしいばかり。

どんな人にでもよい。一目でも、誰かに會いたい心だけが残つたとゆう事です。

無心な月の光のさしこむ住みなれた小屋の中で、菊地さんと二人でさびしくすわつて相談を始めました。

「菊地さん、もうこうしてゐればいづれうえ死をする事になる何とかよい考はないだろうか」

「そうですな。ほんとうに困つた事です、どうもよい考が浮びません」

「私わ此頃向うに見えるバガン島に渡つて見たいと思ひます。丁度古いのだけれどもボートもあるしあそこには島民が住んでゐるとゆう事です」

「それもよい事です、海に出て若しもしけたら死んでしようやうな事があるかも知れませんが」

くれたとゆう事です。

死ぬかも知れんと思つてゐたのが命わ助かる、その上島民からそんなしんせつな事を言われたのでうれしさのあまり、なみだがぼろぼろと出たそうです。

山口さんわ、「今までに此の時位うれしかつた事わありません」と私に話しながらもほろりと涙をこぼしました。

それからとゆうものわ、島民わたいへんに二人をだいじにして仕事などわ少しもさせません。そればかりではなく、魚をとつても山から色々な食物をとつてきてもきつと二人にそれぞれわけまえてくれるとゆうのです。

そして夜になると、毎ばん、ごちそうをして、二人をよんでくれたそうです。

日本の昔話にうら島太郎とゆう人がりゆうぐうとゆう所へいつて、おとひめさまから

、色々だいにせられたとゆう話がありま
すが、私も「此の時はほんとうにうら島太
郎のふうな気がしました」と山口さんわら
れしそくに話しました。

こうして二十日ばかりせわになつてゐる中
に南賀の船が来たので二人わ島民に色々
お禮を言つて、なごりおしくもわかれて、
サイバンに來たのだそです。

それから星うつり月かわつて十何年――
山口さんわ最後に

「サイバンに來てからまもなく、生死を共
にした菊池さんわ、びようきでとうとう死
んでしまいました。

バカンで色々世話になつた島民も、その
後サイバンにかへつて來ましたが、それら
の島民も、ぼつりぼつりと死んでゆきます

。私わその人たちの死ねたびに、自分の親か

兄弟にわかれるような、さびしい気がしま
す。そして、せめて生きのこつてる島民に
、私のありつたけの、ご恩がえしをした
と思はない日はない」とつけ加えました。

* * * * *

私の心を色々に感じさせた、長い物語がすん
で私もほつとしました。そして何だか山口さ
んが、ふつうの人とちがつた、とうといなつ
かしい人のように思われてなりませんでした
が、夕方になつたので「さようなら」をい
てかえりました。

(をわり)

●第十回觀光團日誌

ボナハ島 クリオン

バラオ島 バラロック

トラツク島 ルーベル

○六月十九日 金曜日(晴)

今日ハ午前七時アングウル島ニ入港シテ七
時半上陸スル事ガ出來マシタ。

トラツク支廳長殿トボナベ支廳ノ渡邊サント
二人ニ連ラレテ、探鑛所ニ參ツテ、シバラ
ク休ンデ、サイダーヲ、ゴチソウニナリマシ
タ。午前八時トロニ乗ツテ、鑛鑛ヲホル所ハ
見物ニ行キ、歸リニ色々ナ機械ヲ見セテモラ
ツテ、カンシンシマシタ。十時十五分探鑛所
ノランデ本船ニ歸リマシタ。十一時ニアン
ガウルヲ出港シテ、四時間グライノ後バラオ
ニ入港シマシタ。上陸ノシタクヲシテ、マツ
テイル中ニ、本廳ノランチガ見エマシタ。ソ
シテ觀光團ノ監督ヲスル渡邊サント三谷サン

ト塚原サンガオイデニナツテ、色々注意ヲ下
サツテ、今日ハモウオソイカラ、上陸スル事
ハヤメマシヨウトオツシヤツテ、明朝迎ヒニ
來ルコトヲ約束サレテ、御歸リニナリマシ
タ。

○六月二十日 土曜日(雨)

今朝六時ニ起キテ顔ヲ洗ツテ、七時ニゴハ
ンヲスマシマシタ。九時半渡邊サント三谷サ
ンガ私共ヲムカイニコラレテ、直グ連ラレ
テ本廳ニ向ヒマシタ。本廳ニツイテ一時間計
リロウカデ休ンデ、ソレカラ午前十一時頃長
官カラ御話ヲ頂キマシタ。私ハ一同ニ代ツテ
オレイヲ申シアゲマシタ。ソレカラ少シノ間
休ンデカラ渡邊サント三谷サンニ連ラレテ
本廳ノシヨクタクヘ御晝ニ行キマシタ。皆デ
御晝ヲスマシテカラ、長官邸ヤ電信所ヤ村ノ
様子ナドヲ見物スルハツデシタガ、雨が次第

ニ強クナツテ來マシタノデ、急イデ本廳ニ歸
リマシタ。午後一時ヨリ監督ノ方々ト一緒
ニ波止場ニ行ツテ、ランヂデ本船ニ歸リマシ
タ。ソシテ午後三時ニバラオヲ出港シマシタ
。船ヲ出テカラ渡邊サント三谷サンヨリ色々
御注意ヲ頂キマシタ。ソレカラ私共ノオ小使
錢ヲ三谷サンニ預ツテイタダキマシタ。午後
八時頃渡邊サンガ私共ノヘヤヲ見ニコラレテ
、色々ナル時ノ注意ヲ御話シ下サツテ、オ歸
リニナリマシタ。ソレカラ長イ船旅ノ事ヤ、
話ニノミキクアコガレノ内地ノ事ナド話シナ
ガラ、午後十時頃タノシイ夢路ニハイリマシ
タ。

○六月二十一日 日曜日(晴)
午前六時ニ起キテ、直グ身体ヲフイテ、監
督ノ方々ノ所ヘアイサツニ行ツテキテカラ、
朝ハンヲ食ベマシタ。ゴハンヲスマシテ、シ

バラク休ンデカラ昨日ノ日誌ヲキレイニ、書
キ直シマシタ。今日ハ皆ゲンキデオリマシタ
。監督ノ方ノ所ヘ皆ゲンキデオル事ヲ話シテ
カラ、十時ニネマシタ。

○六月二十二日 月曜日(晴)
今日ハ午前六時前ニ起キテ、顔ヲ洗ツテ食
事ヲシマシタ。間モナク監督ノ方々ガオイデ
ニナツテ、皆カワリハアリマセンカト聞カレ
マシタ。皆ゲンキデスト答ヘマシタラ、安心
シテ歸ラレマシタ。午後三時頃渡邊サンガ私
共ノ様子ヲ見ニコラレタ時ニ、友達ノトバラ
オガ頭ノグワイガ悪クテ、ネテオツタノデ、
ドクターニ見テモラウ様ニシテ、力ヲツケテ
御歸リニナリマシタ。今日ハ波ガシズカデ、
船ニ居ルノガイツモヨリヨイキモチデシタ。
夕方ニ蓄音機ノ唱歌ヲ思ツテ、聞イテイマ
シタノガ、内地デ歌ツテ居ル「ラヂオ」ダト

イワレマシタガ、マダ千涅モハナレテ居ルノ
ニ、ドウシテアンナニヨク聞コエルノカト不
思議ニ思ハレマシタ。

○六月二十三日 火曜日(晴)
今日ハ、お腹ノグワイガ悪イノデ、朝起キ
ルノガイツモヨリオソウゴザイマシタ。午前
九時頃友達ノトバラオト、二人デオイシヤサ
マン所ニイツテ、身体ヲ見テモラヒ、クスリ
ヲ頂イテキマシタ。十時ニハ本船ガ火事ニナ
ツタリ、アンシヨウニノリアゲタトキノジエ
ンビレンシユウヲ皆ニシテ見セマシタ。午後
中ハ身体ガヨクナイノデ、ネテ計リオリマシ
タ。

○六月二十四日 水曜日(晴)
今日ハ午前十時ニドクターニ見テモラツテ
、クスリヲ頂キマシタ。日誌ヲ書イテ居ル時

ニ渡邊サンガオイデニナツテ、皆サンモウソ
ロソツメタイ風ガフク様ニナリマシタカラ
、ヨクキヲツケナサイ、カゼヲヒイテ内地ニ
行クト、中々ナオラナイカラ、サムクナイ様
ニ着物ヲキテ居ナサイ」ト御注意ヲ頂キマシ
タ。夕方ニハ三谷サンガ皆ヲ見ニ來ラレテ、
色々注意シテ御歸リニナリマシタ。八時頃サ
イダーヲ頂イテ皆デノミマシタ。

○六月二十五日 木曜日(曇)
六時頃眼ガサメマシタ。顔ヲ洗ツテデツキ
ヘアガツテ見ルト、風ガツヨクテ海ガアレテ
イマシタ。ケレドモ皆ガイツモノトウリ大ヘ
ンゲンキデシタ。私ハ一日中デツキノ上デ、
三人ノ友達ト話ヲシテイマシタ。エウハンノ
カネニオドロイテ、室ニオリテゴハンヲタベ
マシタ。ソノアト渡邊様トコロカラ、ボナベ
ノクリオンガ來テ、アシタノオヒルゴロ、ヨ

コハマニツキマスカラ、皆ノニモツラカゾエテ、カズヲオシエテ下サイトイヒマシタ。

○六月二十六日 金曜日(曇)

キテキノオトニ眼ガサメマシタ。デツキニ上ツテ見ルト、オ天氣ガタイヘン曇ツテイマシタ。ケレドモ波ハシヅマツテイマシタ。風ガアマリツメタイノデ、又自分ノ室ヘオリテ來マシタ。船ノ人ガイフニハ「モウ一時間モタツタラ大島が見エマス」ト、シバラクタクツテカラデツキニ居ル人タチガ大サワギヲシマスト、皆ガアガツテ見ルト、左ノ方ニ大島、右ノ方ニボウシユウガアラワレテ來マシタ。皆ハウレシソウナ顔ヲシテ、何トナクオチツカナイ様子デシタ。島ハダンダン大キクナツテ來マス。ヨコスカノ前ヲ通りマシタトキハ、小サナ島ガ三ツ四ツアツテ、ソノ上ニヒコウキガ二ダイトンデイマシタ。十時頃ニナ

ツテ私共ノ、ナガクアコガレテイタ、ヨコハマノ港ノ外ニトマリマシタ。ソウシテ大キナ汽船ヤ工場ノエントツニオドロキマシタ。シバラクタクツト、港ノ中カラケンエキ船ガ出テ來マシタ。吉本様ヤ私共ノ團長ノ橋本様モオイデ下サイマシタ。ケンエキガスンデカラ、私共ノ乗ツテ居ル船ハ再度走りマシタ。ソウシテ三號波止場ニツキマシタトキ、皆ノ顔ガ急ニカワツタ位オドロキマシタ。ケレドモ皆ハイツモノ通元氣ガヨクテ、ウレシイ心デ一バイデシタ、皆ガ上陸シタノワ、チヨウド十ニ時デシタガ、ソノ邊ヲクルクル見マワシマスト、大キナ船ヤ大キナ建物ヤ立派ナ家ヤ見タコトノナイ大キナ機械ヤ大ゼイノ人タチガ、ドンドン働イテ居ル様子ハ、何トモイハレナイ程、ホントウニ文明ノ國ニオドロキマシタ。私共ハ櫻木町マデアルイテ、ソコカラ汽車ニ乗ツテ東京驛ニツキマシタ。東京驛カラ

ジドウシヤニ乗ツテ宿屋ニツイタノハ、午後三時デシタ。ユウハンヲタベテカラ私共ハ色々オ話ヲシテ、夜オソクナルマデ大サワギデシタ。

○六月二十七日 土曜日(晴)

朝ハンヲタベテ居ルト、團長サンガ來テ「八時ニ出カケマスカラソレマデニ仕度ヲシナサイ」トイハレマシタノデ、皆ハ支度ヲシマシタ。チヨウド八時ニジドウ車ガ三臺、ヤドヤマデムカイニマイリマシタノデ、皆ガ乗ツテ先ヅ宮城ヲ拜シマシタ。次イデ東京出張所ニ行ツテ、野田様カラ色々タメニナルオ話ヲ聞キマシタ。ソレカラ案内サレテ拓務省ニ行キ、大臣ノオ話ヲ承リマシタ。ソレガスンデカラ役所ノ中ヲ見テ、十一時東京市役所ニ行キマシタ。ソコデハ永田市長サンノ、オヤササイオ話ガゴザイマシタ。十二時頃丸ビルヲ

見テ、南洋協會ニ行キ、晝御飯ヲイタダキマシタ。午後一時ニ、ユウセンカイシヤニ參リマシタ。直グエレベーターニ乗ツテ、七カイマデ上ツテ、アチコチ見マワシマスト、大キナタテ物ノ間ヲ、電車ヤジドウ車ガ、タクサン通ツテ居テ、大ヘンアブナイト思ツテ、シバラクハ眺メルコトガ出來マセンデシタ。歸ル前ニオ茶ヤ菓子ヲ頂イテ四時頃宿屋ヘカエリマシタ。ソノ途中私共七人バカリ、野球ヲミニ行キマシタ。ソレハ、フセダ大學ト、ヨコハマセンモン學校ノ野球デシタ。

○六月二十八日 日曜日(晴)

今日ハ日曜日デ、皆ガヤスミデシタガ、私共バラオノ人ハ六人、教會カラ内藤様ガムカイニオイデニナリマシタノデ、繁星館ヲ出テ東京市小石川區關口臺町ノ天主公教會ニ參リマシタ。(新教ノ信者ハ靈南坂ノ教會ヘ參リマ

シタ)私ガ教會デ一番感心シタノハ、内地ノクリスチャンガ多イ事デシタ。教會ノニワデ内地ニ居ル友達ト記念ノ寫真ヲウツシマシタ。ソレカラ又一シヨニキリスト大學校ヘ見物ニ行キ、四時頃宿屋ヘ歸リマシタ。午後六時ヨリ東京出張所ノ野田サンニ連ラレテ、日本青年會館ニ行ツテ、色々ナカツドウシヤンヲ見テ、大ヘンオモシロウゴザイマシタ。八時頃ゴチソウニナツテ歸リマシタ。

○六月二十九日 月曜日(晴)

午前八時出發シテコノエ歩兵第二レンタイヘ行キマシタ。十一時マデオ話ヲ聞カシテモラツタリ、ヘイタイノ勇マシイイクサノエンシユヤ色々ナ機械ヲ見セテ頂キマシタ。十一時カラ南洋貿易會社ニイッテ、支店長カラコブラノ安クナツタコトナドオ話ヲ聞キマシタ。ソコデ御書ヲオイシク頂イテシバラク

休ミ、ソレカラヨド橋センバイキヨクニ行ツテ、タクサンノリツバナ機械ヤ大ゼイノ婦人達ノ眞面目ニ勤務シテオラレル所ヲ見テ、大ヘンカンシンシマシタ。ココヲ見物シテカラ直グ明治神宮ニ參拜シ午後六時スギ宿屋ニ歸リマシタ。

○六月三十日 火曜日(晴)

午前八時ニ宿屋ヲ出テ、貯金局ニ行キマシタ。ソコデ貯金シタ人ノ名ヲ見セテモラツテ、ソレカラジドウ車ニ乗ツテ、日比谷公園ノ松本ローテイフカフエーデ晝飯ヲイタダキマシタ。松本ローカラ松屋ゴフク店ニ行キマシタ。ソコデ色々ナ品物ヲ買ツテ又三越ニ行キマシタ。ココデ品物ヲ買ツタ人が澤山アリマシタノデ、宿屋ヘカエルノガ六時頃デシタ。

○七月一日 水曜日(晴)

午前八時半自働車ニ乗ツテ深川ノ東京市立第二高等女學校ニ行キマシタ。所ガ先生ハ門マデムカイニ來ラレテ、直グ皆ヲ連レテ學校ニ行ツテ、見物スル前ニ色々學校ノ事ヲオ話

下サイマシタ。ソレカラ講堂ヘ行ツテ澤山ノ生徒ト面會スルコトガ出來タノデ、ホントニウレシク思ヒマシタ。生徒ニアイスツシテカラ各教室ヲ見セテモラツテ、歸リニ澤山ゴチソウニナツテ、其ノ上オミヤゲヲ頂キマシタ。次ニハ千代田小學校ニ行キマシタ。校長先生ノオ話ガアツテカラ生徒ノ教室ヲ見セテ頂キマシタ。ソレカラ東京市立第二中學校サシテ急イデ行ツテ見ルト、ソコニ元ボナベノ支應長ヲシテ居ラレタ福島様ガオイデニナリマシタノデ、私ハ大ヘンヨロコビデ氣持ヨク生徒ノ學課ヤ運動ヲ見セテモラウコトガ出來マシタ。午後一時上野ノ西洋ケンデオ晝ノゴチソウニナツテ、動物園ニ行キマシタ。ソコニ

ハイロイロナ鳥ヤ獸ガ居マシタガ、一番オドロイタノハ「オットセイ」ト「カバ」デシタ。

○七月二日 木曜日(晴)

朝九時カラ上野ノ松坂屋ヘ買物ニ行キマシタ。松坂屋デコーヒーヲイタダイテ、ソレカラエレベーターニ乗ツテ一番下ノ方ヘオリマシタトコロガ、地ノ中ニ道ガアリマシタ。ソノ道ガ地下鐵道トイッテ電車ノトウル道デシタ。私共モンノ電車ニ乗ツテ淺草公園ニ行キマシタ。淺草デハ花屋敷ヤ帝國館ヲ見マシタ。東京デ一番ニギヤカナトコロデ、色々メヅラシイモノガアリマシタ。

○七月三日 金曜日(晴)

今日ハ金ノイル人ガアツタノデ、三谷様ノトコロヘ取リニ行キマシタ。ソレカラキモノヲ着カエテ、九時カラ南海商會社ヘ行キマ

シタ。コノ會社ハレコード石鹼ヲツクルトコロデシタ。コノ會社ヲ出テ大日本合同油脂グリセリン會社王子工場ニ行キマシタ。コノ工場ハ色々ナリンコウヲトリヨセル工場デシタ。コノコデ晝飯ヲイタダイテ、午後一時船ニ乗ッテ荒川カラ隅田川ノ方ヘクダツテ、ソコカラ直グ花王石鹼工場ヘ參リマシタ。工場ヲ見物シテカラボナベ、トラックノ人ガオドリヲ見セテヤリマシタ。ソレカラ自動車ニ乗ッテオリエントカフエーニ行キ、ソコデ夕飯ノ御チンウニナリマシタ。シバラク休ンデカラ淺草ニ行キ、シバイヤオドリヲ見テ午後十時過宿屋ヘ歸リマシタ。

○七月四日 土曜日(晴)

今日ハ朝ノ中ニ京都ヘ行クシタクヲシテ、午前十時ヨリ淺草ヘアソビニ行キマシタ。ソウシテシバイニ出ル人ト一シヨニ寫真ヲトリ

マシタ。ココデ午後三時頃マデ、シバイヲ見タリカッドウヲミタリシテアソビマシタ。宿ニ歸ッテカラ、バラオノエラシボンノ墓ヘオマイリシマシタ。

○七月五日 日曜日(晴)

今日ハ京都ヘ行ク日デシタノデ、私共バラオノ人ハ朝ハヤクカラキネンシヤシンヲウツシマシタ。ソレカラ自動車ニノツテ二重橋ノ前デ皆ノシヤシンヲウツシテカラ、スグ東京エキニツキマシタ。ソウシテ九時ノ汽車デ京都ヘ行クノデシタ。汽車ガアマリ速イノデ、東京カラ三百四十哩モハナレタ京都ニツイタノハ午後四時四十一分デシタ。京都デハ日吉家トイフ宿屋ニトマリマシタ。

○七月六日 月曜日(大雨)

ハゲシイ雨ノ音ニ目ガサメマシタ。外ヘ出

テ見ルトオ天氣ガワルクテ、シバラクマツテモ中々ヤミマセンノデ、九時半ニ出カケマシタ。京都市役所ニイッテ一時間グライ中ヲ見物シテ、ソレカラ二人ノ案内ノ人ト一シヨニ自動車ニ乗ッテヤオマサトイフカフエーデ晝飯ヲイタダキマシタ。午後一時カラ京都ニアルオ寺ヲ見物シテ午後六時頃宿屋ニ歸リマシタ。

○七月七日 火曜日(曇)

午前八時電車ニ乗ッテ八瀬ノ方サシテ行キマシタ。ソコカラ登山ケープルニ乗替エテ、四明ヶ嶽ニノボツテ、向フノ山ヘ空中ケープルニ乗リマシタ。ココカラハ京都中ヲ一目ニ眺メルコトガ出来テ、ナニヨリ大ヘンオモシロウゴザイマシタ。午後一時ニ山カラ下リテ八瀬ノ遊園地ノ食堂デ御晝ヲスマシテカラ、直グ電車ニ乗ッテ京都ノ大學病院サシテ急ギマシタ。ソコデハ元バラオニオイデニナツタ

高崎院長サンニツレラレテ中ヲ見物シマシタ。色々メヅラシイ機械ノアル中デ、一番感心シタノハレントゲンデアリマシタ。ソコヲ見物シテカラ直グ宿屋ヘ歸リマシタ。夜ハカッドウヲ見ニ行キマシタ。

○七月八日 水曜日(晴)

朝八時ニ日吉家ヲ出テ、自動車ニ乗ッテ伏見ノイナリサマヲ參拜シ午後一時京都本願寺ニ行ツテ三十分バカリ見物シマシタ。ソレカラ物産陳列所ヲ見マシタ。午後二時過ギ京都エキニテ來車、四時頃大坂エキニツイテ、近クノ金龍館ニトマリマシタ。夜ハ文樂座ノ見物ニ行キマシタ。

○七月九日 木曜日(晴)

午前八時ニ金龍館ヲ出テ造幣局ニ行キマシタ。オ金ガ雨ノ様ニ機械カラ出ルノガ大ヘンフシギデシタ。造幣局ヲ出テ櫻宮橋ヲ通ツテ

大坂城へ行キマシタ。直ニ司令部ノ和田陸軍中佐ニ連ラレテ、司令部内ヲ見物シテ、シマイニ傳書鳩ノ使方ヲ説明シテ下サイマシタ。ソレカラ直グ公會堂へ行ツテ御晝ヲ頂キマシタ。午後二時カラ日本アルミニウム製造所ニイッテ、工場ヲ見物シテカラ、歸リニ毎日新聞社ニヨツテ、寫眞ヲウツシタリ南洋ノ活動ヲ見セテモラツタリシマシタ。ソレカラ朝日新聞社ニ行ツテ新聞ヲ造ル機械ヲ見テ、ホントニ感心シテ、六時頃金龍館ニ歸リマシタ。

○七月十日 金曜日(雨)

午前八時ニ宿屋ヲ出テ、自働車ニ乗ツテ、鐘淵紡績會社ニ行キマシタ。コノ會社デハ七千五百人モノ澤山ナ人ガ働イテ居ルソウデ、人ノ多イノニハオドロキマシタ。又織物工場ヲ見ルトキニハ機械ノ音ガキレイナノデ、案

内者ノ話ガ中々キイトレマセンデシタ。ココヲ見物シテカラ、島田硝子製造所ニ參リマシタ。色々硝子ノ造方ヲ見テ大ヘン感心シマシタ。午后ハ道頓堀ノゲキ場角座ニ行ツテ、シバイヲ見マシタ。アマリ面白イコトハアリマセンデシタガ、カンシンスル所ハ澤山ゴザイマシタ。

○七月十一日 土曜日(雨)

今日ハ私共ミンナデ、電車ニ乗ツテ、タカラヅカヘ行キマシテ、シバイヲ見マシタ。若イ日本ノ、キレイナムヌメタチガ、キレイナキモノヲキテ、ウツクシイ聲デ、ウタツタリオドツタリシテイマシタ。私共ハ皆ヨロコビデ面白ク見テイマシタ。夕飯ヲスマシテカラ八人ハ三谷サント歸リマシタガ、私共八人ハノコツテ夜ノカツドウシヤシラ見マシタ。夜ノ十時ノ電車デ金龍館ニ歸リマシタ。

○七月十二日 日曜日(曇)

朝早く起キテ、顔ヲ洗ツテ、ゴ飯ヲタベマシタ。今日ハ大坂ヲタツコトニナツテ居ルノデ、私共ハ皆自分自分ノニモツヲカタツケタリナドシマシタ。少シタツテカラ三谷ザンガオイデニナツテ、サア出カケマシヨウトイハレマシタノデ、ミンナ手ニモツヲ持ツテ、大坂驛ニ行ツテ汽車ニノリマシタ。汽車ノ中デハ皆ガ話ヲシタリネタリシテ、ユウガタ横濱ニツキ、紀ノ國屋トイフ宿屋ニトマリマシタ。パンノゴ飯ヲタベテカラ、ミンナハ今日ノツカレデ、早くネテシマイマシタ。

○七月十三日 月曜日(雨)

今日ハ横濱デ朝カラ晩マデ町ノ見物ヲシマシタ。雨ガ澤山フツテ大變寒イノデ、中々ネムラレマセンデシタ。

○七月十四日 火曜日(雨)

今日ハ横須賀見物ニ行キマシタ。横須賀海軍工廠デ色々ナ軍艦ヲ機械ナドヲ見タリ、又南洋ニ參リマシタ第二艦隊ナドモ見マシタ。ソレカラランチニ乗ツテ、海軍飛行場ニ行キマシタ。ココデハ色々ナ飛行機ヲ見マシタガ、今日ハ雨ガ降ツテ居ルノデ、飛行機ハ飛ビマセンデシタ。汽車デ横濱驛ニツイテ、出口デ皆ヲシラベテミタコロ、一人足ランノデ大ヘン心配シマシタガ、品川カラヒキカエシテ來マシタノデ、皆安心シテ宿ニ歸リマシタ。

○七月十五日 水曜日(雨)

ハゲシイ雨ノ音ニ目ガサメタ時ハ、マダウスグライ夜明ケデシタ。今日ハ船ガ出ル日ナノデ、皆ハ六時頃ニ起キテメイメイ自分ノ荷物ヲニツクリシマシタ。ソノ中ニ時計ガ十時

ヲウチマシタノデ、私共ハメイメイ買物ニ出カケマシタ。アマリ皆ガ色々ナ物ヲ買ツテ、方方歩イタノデ、大ヘン時間ガカリマシタ。私共ガヨウヤク宿屋ニ歸ツテ、晝ゴ飯ヲタベタノハ午後一時半デシタ。ソレカラ皆ハシタクヲシテ三時頃船ニ乗リコミマシタ。船ニハ送ル人送ラレル人デ一バイデシタ。ソウシテ、カナシンデ居ル人ヤ、ウレシソウナ人ヤ、イソガシソウナ船員デ、シバラクノ間ハ大キナ船モセイ位コミアイマシタ。私共ハ初メテアツタ友達ヤオ世話ニナツタ人タチニ、ソノイソガシイ中デオワカレノアイサツヲシマシタ。イヨイヨ四時合圖ノドラガナルト、見送リノ人ガ皆赤ヤ青ノキレイナ、テ一ブヲナゲテ、ワレワレノ船ニ名残ヲオシンデ下サイマシタ。「ボート」ト凧笛ガナツテ、ヤガテ船ハ少シツツハシリハジメマシタ。送ル人送ラレル人達ハ、オタガイニ帽子ヤハンカチヲフ

リハジメマシタ。テ一ブモダンダンノビテ、皆ガ最後ノコトバラ大キナ聲デサケビ合ヒマシタ。船ガダンダン速クナツテ、テ一ブモダンダン切レテ、見送リノ人ノスガタモ小サクナツテ來マシタ。ソレカラ聲モ聞コエナクナリ、帽子ヤハンカチノウゴクサマモ、ダンダシ小サクナツテシマイマシタ。ソノ中私ガ初メテ氣ガツイテアタリヲ見マワシマスト、大方ノ船客ハミンナ室ニイツタノカ、二三人シカ見エマセンデシタ。アア思ハバ僅カノ間デアリマシタガ、ナツカシイ日本ノ事ヲ思ヒ出シテ、何ダカサビシイヨウナ、何トモイハレナイ氣持ニナリマシタ。ソレデ私ハ黒ク長ク見エル日本ノナツカシイスガタニ、心カラオワカレシマシタ。ナツカシイ日本、ワスレエナイ幾日、私ハ二度日誌ヲクリカエシテヨミマシタ。船ガダンダン速クナツテ、横濱ハスツカリアノ長イ島ノドコカニマレテシマイマシ

タ。ソノ中私共ノ誰ノ目ニモ涙サエ光ツテ來マシタ。私共ハ夕飯ヲタベテ、スグキメラレタ室ニイツテ、晝ノツカレデグツスリネムツテシマイマシタ。

○七月十六日 木曜日(晴)

波ノ音ニ目ガサメテ見ルト、海ハ大ヘンシヅカデ、皆ガデツキノ上デ一日中話ヲシタリ、ウタヲウタツタリシテイマシタ。夜ハ涼シイ風ニ吹カレテ、居ナガラ夜ノ海ヲ眺メテ、變リナイ海ノ話ナドシテ十一時ネマシタ。

○七月十七日 金曜日(晴)

今日ハキノウヨリ波ガ高クナツテ、風モツヨクナリマシタケイドモ、皆ハイツモノ通り大ヘン元氣デ、朝カラ晩マデ甲板ノ上デ、色々日本デ見タコトヲ話シタリ、ウタヲウタツタリシテ、夜ノ十時頃ニネマシタ。

○七月十八日 土曜日(晴)

アマリ船ガユレルノデ、甲板ニ上ツテ見ルト、何ダカキノウヨリ又波ガ高クナツテ、海モ少シアレテイマシタガ、皆元氣デ、ベツニカワツタコトモアリマセンデシタ。

○七月十九日 日曜日(晴)

朝起キルト直グ顔ヲ洗ツテ、八時半頃ゴハシヲタベテカラ、甲板ニ上ツテスズンデオリマシタ。オ晝前ニ皆ガ集ツテ日曜日ノオ祈ヲシマシタ。午後八時頃一等ノカンバンデ、金森先生ト一シヨニ讚美歌ノレンシユウヲシマシタ。

○七月二十日 月曜日(晴)

子供ノナク聲ニ目ガサメマシタ。甲板ニ上ツテ見ルト、イツモヨリ早カツタガ、シカタナシニ遊ンデ居リマシタ。トコロガ東ノ空カ

ラ、ボツツリトウツクシイ朝日ガ浮ンデ來マシタノデ、ソレヲ見ルト、皆サンモ起キテボツボツアガツテ來マシタ。ソコデ顔ヲ洗ツテ朝飯ヲタベテカラ、スグ甲板ニ上ツテ、涼シイ風ニ吹カレナガラ晝ネヲシマシタ。ソウシテ夕方目ガサメルト、又カワラナイ海ノケシキヲ眺メルノデシタ。夜十時半頃皆ネテシマイマシタ。

○七月二十一日 火曜日(晴)

今日ハ波ガ大ヘンシツカデ、イツモヨリヨイ氣持デシタ。午后渡邊サント三谷サントガメイメイニ來ラレテ、「明日午前八時頃本船ガバラオニ着ク」トオ話下サイマシタ。

○七月二十二日 水曜日(晴)

今日ハ皆五時頃ニ起キテ、色々荷物ノカタツケヲシマシタ。ソウシテ船ノ人ガ「ケンエ

キノ來ルマデニシタクヲシテ甲板ニ上ツテ下サイ」ト申シマシタノデ、皆ガシタクヲシテ甲板ニ上リマシタ。八時ニケンエキガスムト、塚原サント安井サントガムカイニ來テ下サツタノデ、スグ上陸スルコトガ出來マシタ。九時頃本廳ニツイテ、シバラクオ茶ヤオ菓子ヲヨバレテ休ンデオリマシタ。十一時ニ長官カクカノ御クンジガゴザイマシテ、私ハ一同ニ代ツテオレイヲ申上ゲマシタ。之ガスンデカラ、オ晝ノ御チソウニナリマシタ。午后一時カラ、バラオヲ見物シテ夕方解散シマシタ。

(終リ)

兒童 共同一致

劇 サイバン公學校 クリモト

出ル人

兎^{ウサギ} 二匹
虎^{トラ} 一匹
蟻^{アリ} ナカマ大セイ

(幕ガアクト兎ガ二匹出ル)

兎^二「早く行きましょう。此のへんはいつもあのらんぼうな虎の出る所ですよ。」

兎^三「虎が出る？ 僕は虎なんか少しもこわくない。」

兎^二「あなたは虎がこわくない？」

兎^三「僕は此の世の中にこわいものなしさ。」

兎^二「えらい音だね！」

私は虎に一聲ほえられると、こわくて歩くことも出来ません。

兎^二「あなたわ弱虫だね。僕は虎でも、ししでも平氣だよ。まして山犬やおをかみなんか何ともない。」

(いはつて見せる)

(その時虎が「うー、うー」とほえる。

兎^二「逃げようとしたが足が思う様に行かずに、そこへ、へたばつてしよう。」

虎^一「こりや、兎。お前たちは、ふとどきなやつだ。」

兎^二「(どもりながら)へいへい、これは大王さまでございますが、いいお天氣で、へい何、いいお天氣だと、今二匹で何を言つてゐた。」

兎^三「へいへい、私共は決して大王さまのわるくちなどは、これつばかりも(指先を示して)申しは致しません。」

虎^一「うそをつけ。うそをつくと承知しないぞ。」

兎二「へいへい。決してうそは申しません。」

虎「けしからんやつだ。どうしても、うそをつくなら俺にもかくごがあるぞ」

(姿勢をとつて)「うー」

兎二「一匹耳をおさえて、ふるいすがる。」

やがて両手を地べたについて

兎二「大王様。どうぞお怒りになるのはお止め下さい。胃もはらわたも腹の中で、でんぐりかえりそうです。」

兎三「申し上げます、申し上げます、正直に申し上げます。」

虎「あはは。さあ言つてみる。」

兎二「正直に申しますから、どうぞ命ばかりはお許し下さい。」

虎「あはは。然しそれわ聞いた上でなければ約束できないぞ。」

兎三「それでは申し上げます。白状さへしたらお許し下さい。」

虎「又そんなまいいきを言ふか。」

(姿勢をとつて)「うー」(兎二匹又前の如くする)

兎二「それだけは、お許し下さい。(胸をおさへて)大王様にほえられると、生きた氣持はいたしません。」

兎三「仕方がありません、然し正直に申し上げます。たらどうぞお許し下さい。」

虎「あはは。よろしい。正直に申したら許してやる。」

兎二「實は二匹で、何を言つたつて、此の世界中で一番お強いのは大王様だと、申して居たのです。ししも強いとわ、聞いてゐますが、どうしてどうして、大王様にはかてますまい……とそう申して居たのでございます。」

虎「それに違くないか。」

兎二「違いありません、大王様は此の世界中で

の大王でございます。

虎「さうか、それならよろしい。おれは又お前たちが、おれのわる口を言つてゐたかと思つた。」

兎三「どうしてどうして、わる口どころか、困つた時には大王様に助けていただくより外に仕方がありません。」

虎「それは勿論じや。何でもこまつたら、おれの所へ来い、助けてつかわす。」

兎三「へいへい。有難うございます。大王様はししよりも強いですからな。」

虎「それはもちろんだ。」

兎二「それにつけて、大王様に一つの御願がございますが。」

虎「何お願だと。又おをかみにでも、いじめられたか。」

兎二「いい實は私共の家のそばに、赤あり共が大きなすを作つて居りまして、時々子

供たちや私共がいい氣持で晝寝をしてゐる所をちくりとさされます。」

兎三「全くありには、へい口して居ります。どうぞ大王様のごいこうで、あり共をこせいばつなさつて下さいませ。」

虎「あはは。何かと思つたら、たかがあるちび助のありか、あんなものわ、わけなしのこんこんちきだ。」

兎二「早速ごしようち下さつて有難うございます。」

虎「おれがしようちしたのだ、安心して居れ

。」

兎三「どうも有難うございます。」

(兎二匹去る、虎後見送つて)

虎「弱虫共はよるこんで行つた。あり位はいつでも退治できるが、どうもわからないのわ、あの弱い人間が、われわれのなまを生どりにすることだ。」

（その時、かげで あり「あはははは、あはははは」と高い聲でわらう）

虎「おこつてあたりを見まわしながら」

誰だ、今わらつたのは。出てこい、（なかなか出てこない）早く出てこい。

蟻「あはははは。虎さん。ここです、ここです。」

虎「誰だ。どこだ。（きよろきよろあたりを見まわす）」

蟻（出てくる）私です。蟻です。

虎「うん。ちびすけの蟻か。何で笑つた。」

蟻「さつきから、兎との話をきいてゐたんですが、全くおかしいんですもの。あはははは。」

虎「生意氣なやつだ。つかみころしてくれ。」

蟻（にげまわりながら）まあ、おききなさい。あなたは、わかりきつたことを言ふから

笑つてゐるのです。人間はあなたより弱いでせう、然し人間が、あなた方をい

けどりにするのは、いくにかで、力をあわせるでわありませんか、私どもだつ

て、大ぜいかければ、あなた方には負けません。

虎「何、おれに負けないと。」

蟻「そうです、大ぜいなら、あなたに負けません。」

虎「ちようどよい。さつき兎共がたのんでい

つたんだ、お前の友達を見んなよんでこい。かたつばしからふみつぶしてくれ

る。よろしゆうございます。それではなかまを集めましょう。おーい。おーい。来てくれ。」

蟻「あーい、（蟻のなかま、ぞろぞろ出てくる）

蟻「何がはじまつたのだ？」

蟻「わつしよい、わつしよい、わつしよい。」

虎「うーん、うーん（たをれる）」

蟻「助けてくれえ、こうさん、こうさん。」

虎「何、こうさんすると。そんな大きな、な

りをして？」

虎「君たちには、どうしても勝てない、こう

さんした。」

蟻「それでは許してやろう。」

（大聲で）

蟻軍ばんざい。ありぐんばんざい。

（一同「しよ」となへる）

……幕……

蟻「何かおもしろい事でもあるのか？」

一同「何だ、何だ。」

蟻「ほかでもない。私が今、私たちみんなか

かつたら、虎さんを負かせると、こう言

つたんだ。すると虎さんが、それならか

つて見ろといふので、皆にあつまつても

らつたのだ。」

一同「ようし。承知した。さあやつてしまをう

。」

虎「何をなま意氣な。さあ来い。」

蟻「わつしよい、わつしよい。（虎にとびかか

る）」

虎「うー。うー。（蟻をふりとばしながら、は

ねまわる、そのあとへ蟻はひしひしと、

せめよる、しばらくの争の後、虎、だん

だん弱つてくる）」

蟻「わつしよい、わつしよい、わつしよい。」

虎「うーん、うーん、うーん。」

ムカシ、アルトコロニ、クイノムホウトエ
ウフウフガスンデイマシタ。二人ノアイダニ
ワ、スメデルトユウカワイイムスメガアリマ
シタ。

ムスメワ、ウオノメガダイスキデ、マイニチ
、チチニツレラレテ、ウオツリニイツテワ、
ツリアゲタウオノメヲ、エグリトツテタベテ
イマシタ。

ソシテ、メノナイウオバカリモツテカエルノ
デ、ハハワイツモイヤナカオラシテ、リヨウ
リシテイマシタ。

アル日、ハハワチチニソウダンヲシマシタ。

「ドウシテ、コンナニメノナイウオバカリツ
ツテクルノデスカ。」

「ソレワ、スメデルガ、タベテシマツタカラ

「ワルイコデスネ。オンナノクセニ、アンナ
ムスメワ、ハヤクウチカラオイダシテシマイ
マシヨウ。」

「ソナ、ランボウナコトワデキナイ。」

「ソレデワ、コンドツリニイツタトキハ、ア
ノコカラトラレナイヨウニシテ、メノアルウ
オヲモツテキテクダサイ。私モウオノメガタ
ベタクテナラナイノデス。キツトオイシイデ
シヨウカラ。」

「シカシ、ソレワタイソウムヅカシイコトダ
。ツリアゲタカトオモウト、スグエグリトツ
テタベテシマウンダカラ。」

「アノコノ、シラナイヨウニソツトツリアゲ
テ、バスケノナカニデモカクシテキタラ、ダ
イジョウブデシヨウ。タツタ二三ビキデイ
デスカラ、キツトモツテキテクダサイ。」

「ヨロシイ。デワ、ソウスルコトニシヨウ。」

アクル日、チチワマタ、ムスメヲツレテ、ツ
リニデマシタ。

オキニフネヲトメテ、ツリハジメルト、タイ
ソウヨクツレマシタ。

ムスメワ、メダマヲエグリハジメマシタ。チ
チワ、ムスメノシラスマニ、二三ビキノウオ
ヲ、バスケノナカニカクシマシタ

ソシテ、ユウガタニナツテカラ、ウチニカエ
ツテ、ハハニサカナヲヤリマシタ。バスケノ
ナカノウオヲミタハハワ、タイソウヨロコン
デ、サツソクヤイテタベマシタ。

ヤガテ、

「アア、アノコワチチニモハハニモヤラズ、
ジブン一人デ、アンナオイシイウオノメヲ
タベテシマツテイタ。ホントウニオヤフコウ
ナワルイコダ。ネエ、アンナワルイコワ、ド
コカエステテシマウカ、ソレトモコロシテシ
マイマシヨウ。」

ト、サモニクラシイカオラシテ、チチニイ
マシタ。

「ソナバカナコトガデキルモノカ」

「イエ、イエ、ドウシテモウチエオクコ
トワデキマセン。コドモノクセニ、アンナ
ワルジエガアルンデスモノ。オウキクナツ
タラ、ドンナオヤフコウヲスルカモシレマ
セン。」

イマノウチニ、コロスカ、ステルカシテオ
ゲバ、私ラモシンバイガナクナルワケデシ
ヨウ。」

チチワ、イヤナカオラシテ、ダマツテイマシ
タ。

ハハワ、マイニチマイニチ、マエノヨウナコ
トヲクリカエシテ、チチヲシヨウチサセヨウ
トシマシタ。

四五日タツテカラ、トウトウチチモシカタナ
ク、ハハノユウトオリスルコトニキメマシタ。

ソシテ、チチワウラ山カラオウキナ、バンノ
 木ヲキツテキテ、リツバナハコヲツクリマシ
 タ。ソノナカエイモヤラバンノミヤラ、ヤシ
 ノミナドノタベモノヲイレマシタ。ハハワ、
 ムスメヲウミニツレテイツテ、カラダモカミ
 モキレイニアラツテ、ウツクシイコシミノヲ
 ツケテヤリマシタ。
 ソノバン、ムスメガヨクネムツタコロ、ハハ
 ワムスメヲ、ソツトハコノナカニイレテ、ウ
 エカラフタヲシテ、ソトカラシツカリナワデ
 シバリマシタ。
 チチワ、ソレヲカツイデウミニモツテユキ、
 ナガイツナヲツケテ、ヤシノ木ノネモトニツ
 ナイデ、オキノホウニオシナガシテウチエカ
 エリマシタ。
 ツギノバン、チチワオウキナバンノミヲニテ
 、ハハニキズカレヌヨウニ、コツソリカイガ
 ンニイツラ、ツナヲタグツテハコヲヒキヨセ
 マシタ。
 フタヲアケテミルト、ムスメワ、カミサマノ
 ヨウナツミノナイカオヲシテ、スヤスヤネム
 ツテイマス。
 チチワ、ムスメヲダキオコシテドコカエ、ニ
 ゲテイキタクテタマリマセンデシタガ、ソノ
 ママムスメノカオニキツスシテ、モツテキタ
 バンノミヲハコノナカニイレ、マタフタヲシ
 テモトノヨウニナガシテオキマシタ。
 ハハワ、チチノアトヲツケテキテ、カイガン
 ノヤシノ木ノカゲニカクレテ、チチノスルコ
 トヲダマツテ見テイマシタ。
 チチガ、タチサツテカラ、ハハワコノツナヲ
 ハデカミキツテ、オキノホウエオシナガシテ
 、ニヤニヤワライナガラウチエカエリマシタ
 。ヨクアサ、チチガカイガンニイツテ見ルト
 、ハコヲアリマセン。
 ツナワナニモノカニキラレテイマス。

コレワ、キツトハハノシワザニチガイナイ、
 トオモツタチチワハラガタツタマリマセン
 。ハヲクイシバツテオコリマシタ。
 シカシ、人ノヨイチチワウチニカエツテモ、
 ハハニワナニモイワズニダマツテコラエテイ
 マシタ。
 サテ、コノシマカラズツトハナレタ、トオイ
 トコロニツノシマガアリマス。
 ソノシマニワ、カムリツジトユウ、カミサマ
 トモニンダントモツカヌオトコガ、タダ一人
 スンデイマシタ。
 カムリツジワ、アサオキルトイツモシマノマ
 ワリヲミマワツテ、カイガンニナガレツイタ
 モノヲシラベテイマシタ。
 アルアサ、カムリツジガイツモノヨウニ、カ
 イガンヲミマワツテイルト、メズラシイ一ツ
 ノハコガナガレツキマシタ。
 「コレワ、メヅラシイ。ドコカラ、ナガレテ
 キタンダロウ」ト、オウヨロコビデハコヲヒ
 ロイアゲヨウトシマスト、トツゼンナカカラ
 「ダレダ」ト、オウゴエラダシテシカリマス。
 カムリツジワ、ビツクリシテ、テヲハナシマ
 シタ。シバラクシテマタテヲカケルト、「ダレ
 ダ」ト、サケビマス。カムリツジワ、イヨイ
 ヨビツクリシテ、イソイデウチエカエリマシ
 タ。
 ソシテ、ドウシタラアノハコヲヒロイアゲル
 コトガデキヨウカトカンガエマシタ。
 ヤガテ、カムリツジワヤシノミノカラヲ、リ
 ヨウホウノミニハメテ、ソトカラノハナシ
 ゴエガスコシモキコエナイヨウニシマシタ。
 ソシテ、カイガンニイツテ、ハコヲカツギア
 ゲマシタ。中カラワシキリニ「ダレダ、ダレ
 ダ」ト、ユウコエガシマスガ、カムリツジニ
 ワスコシモキコエマセン。
 カレワ、ハコヲカツイデウチニカエリマシタ

。ソシテ、ニワニオロシテミニハメタヤシ
ノカララハズシテ、フタヲアケヨウトスルト
「シズカニシテクダサイ。ケガラシナイヨウ
ニアケテクダサイ。私ガイマスカラ。」ト、ユ
ウコエガシマス。

カムリツジワ、イヨイヨキミガワルクナリマ
シタ。シカシ、ナニガハイッテイルカミタク
テタマラナイノデ、オモイキツテフタヲアケ
ルト中ニワ、タイソウカワイラシイ、コムス
メガ一人スワツテイマス。

カムリツジワ、タイソウフジギニオモツテ、
「アナタワ、ニンゲンデスカ。ソレトモカミ
サマデスカ。」ト、タズネマスト「エエ私ワニ
ンゲンデモアリマセン。カミサマデモアリマ
セン。ニンゲントカミサマノアイダノモノデ
ス。」ト、ムスメワヤサシイコエデコタエマシ
タ。「ソレデワ、ハコノソトエデテクダサイ
。私モアナタトオナジヨウニカミサマトニ

ンゲンノアイダノモノデスカラ」トユウト、
ムスメワシズカニハコカラデマシタ。

カムリツジワ、ウチニツレテイツテイロイロ
ゴチソウラシタリ、コノシマノオモシロイハ
ナシヲシタリシテ、ナグサメテヤリマシタ。
ムスメノスメデルモ、タイソウアリガタクオ
モツテ、ジブンノシマノハナシヤフボノコト
、ソレカラ、ハコニイラレテ、ナガレテコ
ノシマニツイタコトマデ、クワシクハナシテ
キカセマシタ。

カムリツジモ、ムスメノミノウエヲキノドク
ニオモツテ、マスマスシンセツニイタワツテ
ヤリマス。ソウシテ二人ワマイニチナカヨク
、クラスヨウニナリマシタ。
コウシテ、ナンネンモタツテムスメラスメデ
ルモズイブン大キクナリマシタノデ。二人ワ
ケツコンスルコトニナリマシタ。マモナク、
スメデルワ一人ノコドモヲウミマシタ。ソレ

ワ、人デワナクテ大キナコウモリデシタ。

ツギニオトコノコガ三人ウマレマシタ。

ソレカラ、オンナノコガ三人ウマレ、ツギニ
ウマレタノワ一ビキノワニザメデシタ。

スメデルフウフワ、ソレヲウミニモツテイッ
テ、オヨガセマシタ。

ワニザメワ、マイニチシマノマワリヲオヨギ
マワツテイマシタ。

アル日、タクサンノトリガスメデルノウマレ
タシマカラ、ムレヲナシテトシマシタ。

コウモリモ、ソノナカマニハイツテヨロコン
デトビマワツテイマシタ。

ヤガテ、トリノムレヲモトノシマエトシマ
エリマシタ。

ソノトキ、コウモリモ一シヨニトシマエキマ
シタ。

コウモリワ、ハハノスメデルノウマレタウチ
ノニワニアル、大キナタマナノ木ノエダニト

マツテ、木ノミヤ木ノハラタクサン、ニワニ
オトシマシタ。

ハハノ、リヨウシンワモウトシヲトツタオジ
イサントオバアサンニナツテイマシタ。

ニワノ木ニトマツテイタズラヲシテイイルコウ
モリヲ見タオジイサンワ、「コウモリノヤツ、
ナンデソナワルサラスルノカ。ソレワムス
メノスメデルガウエタカタミノ木ダ。」ト、ド

ナリナガラホウホウトオイマス。

シカシ、コウモリワニゲヨウトモセズ大キナ
コエデウタヲウタイハジメマシタ。「私ノト
ウサンワカムリツジ、私ノカアサンワスメデ
ルヨ。」コンナコトラ、クリカエシクリカエ

シウタウノデ、オジイサンモオバアサンモフ
シギガツテ、ダマツテキイテイマシタ。

「ソナ、タカイトコロデウタツテモヨクキ
コエナイ。モツト下ノエダニキテナキナサイ
トシヨリノミミワトオイカラナ。」

ト、オジイサンガエウトコウモリワ下ノエダ
デウタイマス。

オジイサンワ、ウタノワケガヨクワカラナイ
ノデ、

「モット下エコイ。モット、モット、モット
下、モットコツチ、モットコチラ、モット

モット。」ト、イイマス。

コウモリワ、ダンダン下エオリテ、トウトウ
イエノキノ下マデキマシタ。

ソコデ、オジイサンワコウモリニウタノワケ
ヲタズネマシタ。

コウモリワ、ソノワケヲハナシテカラジブン
ノミノ上バナシマシタ。

「私ノオカアサンワ、オニノヨウナナサケ
ヲシラスオヤカラストラレテ、ハコノ中ニ

ハイツテナガレテキタソウデス。」

コウモリガ、ココマデハナシタトキ、オジイ
サンワムカシノコトガ「ドニオモイダサレテ

ワットナキダシマシタ。

オバアサンワ、コウモリカラムスメノスメデ
ルノコトヤ、マゴタチノコトヲキイテ、フト

ムスメノシマエ、イツテミタクナリマシタノ
デ、

「オマエ、ソノオカアサントエウノワ私ノ
ムスメダヨ。ソレデ、オマエワ私ノマゴダ

。私ワオマエノオバアサンダ。マアヨクオ
マエワコノオバアサンヲタズネテクレタ。

ソレカラ、私モナア、オマエノシマエ、ゼ
ヒイキダイカラオマエワイソイデウチエカ

エツテオカアサンエコノコトヲヨクハナシ
テ、ハヤクムカエニクルヨウニイツテクレ

。」ト、コウモリニハナシマシタ。

コウモリワ、大ゾラニマイアガッタカトオモ
ウト、ヤノヨウニトシテハエソノコトヲハナシマ

シタ。ソシテハエソノコトヲハナシマ
スト、

「ソレデワ、アサツテムカイノモノヲヤル
カラ、カイガンニデテマツテイルヨウニハ
ナシテオクレ。」ト、イイマシタ。

コウモリワ、マタ、オバアサンノシマエトシ
テイツテコノコトヲハナシマシタ。

オバアサンワ、ウレシクテタマリマセン。ピ
ンロウジエノミヤ、ヤシノミ、イモナドヲヨ

ウイシテ、ソノ日ノクルノヲマツテイマシタ
。オジイサンモ、一シヨニイクヨウニスス

マシタガ、

「私ワ、ムスメニアワセルカオガナイカラ
イカナイコトニスル。オマエダケイツテユ

ツクリアソソデキタラヨカノウ。」トイツテ
イツマデモナイテイマシタ。

イヨ、イヨ、ソノ日ガキマシタ。マダクライ
ウチニオキタオバアサンワ、バスケニイレタ

ニモツラサゲテカイガンニイキ、ムカイノモ
ノガクルノヲ、イマカイマカトマツテイマシ

タ。ヤガテオキノホウカラナミヲタテテ、大
キナワニザメガヤツテキテ、オバアサンノマ
エニセナカヲサシダシマシタ。

ソシテ、

「ドウゾ、セナカニオノリクダサイ。私ワ
オバアサンヲムカイニキマシタ。私ワオヨ

グゴトワナカナカタクツヤデスカラ、スコ
シモアブナイコトワアリマセン。」ト、ユウ

ノデオバアサンワセナカノ上ニツツテ、セビ
レヲシツカトニギツテイマシタ。

ワニザメワ、オキノホウニデマシタ。

大キナヒレヲウゴカシナガラ、ナミヲキツテ
ズンズンヌスンデイクマス。

モウシマカゲモミエナクナリマシタ。ドコヲ
見テモアオイウミバカリデス。

ソノトキ、トツゼンワニザメヲオバアサンヲ
フリオトシテ、ウミノナカエモグリコンデシ
マイマシタ。

オバアサンワ、大ヘンクルシンデトウトウフ
カイフカイウミノソコエシズンデシマイマシ
タ。(オワリ)

一、オウキユウテアテ
ヤケド

アツイオユ、ユゲ、アツイヒバシ、ナベナ
ドデ、ヤケドヲシタトキニハ、ツメタイ水
デヒヤシテカラ、アブラヲツケテ、ホウタ
イヲシテオクトヨロシイ。
キモノニ火ガツイタトキニハ、スグニソノ
人ヲユカノ上ニネカシテ、モウフカ、フト
ンデツツンデ火ヲケシマス。ソシテスグニ
オイシヤサマニミテモラワナケレバナリマ
セン。

二、ケガ

キリキズデ、チガタクサンデルトキニハ、
チヲトメルタメニ、キレイナキレデ、ホウ
タイヲシマス。ソレデモナオチガトマラナ
イトキハ、キズノ近クヲシツカリシバツテ
オイテ、ハヤクオイシヤサマニテアテヲシ
テモラワナケレバナリマセン。

キズグチカラ、ワルイバイキンガハイルト
、タイヘンヒドイビヨウキニナルコトガア
リマスカラ、ヨクキヲツケナケレバナリマ
セン。

ケガノクスリニハ、ヨヂウムチンキ、ヨウ
ドホルムナドガヨロシイ。

ホウタイニハ、ナガイノヤ三角ナノヤ、ソ
ノ外イロイロナノガアリマス。ヨクカンガ
エテ、ソノバヤイニツゴウノヨイモノヲツ
カウガヨロシイ。

ウタレタケガハ、ヨクヒヤシテ、ヨヂウム
チンキヲヌツテオクガヨロシイ。ケレドモ
ホネガオレタトキヤ、ダツキユウシタトキ
ハ、ウゴカナイヨウニシテ、ハヤクオイシ
ヤサマノテアテヲウケナケレバナリマセン
。

三、水ニオボレタトキ

水ニオボレタモノハ、ハヤクキモノヲヌガ

四、ドクムシ

セテ、カラダヲフキ、クチヲアゲテ、ウツ
ムキニネカシマス。アタマハナルベクヒク
クシ、ハラヲオシテ、スツカリ水ヲハキダ
サセマス。ツギニ、ウエニムケテネカセ、
ジンコウコキユウヲヤツテカラ、カラダヲ
コスツテヤリマス。ソレカラモウフニツツ
ンデ、アタタメテヤリマス。ソシテ、ハヤ
クオイシヤサマニシラセナケレバナリマセ
ン。ジンコウコキユウホウハ、オイシヤサ
マガオイデニナルマデ、ツヅケテヤラナケ
レバイケマセン。スコシヤツテ、スグヤメ
テハダメデス。

五、チュウドク

ドクムシニササレタトキニハ、ソコニサト
ウ水ヲヌルトヨロシイ。一番ヨイノハ、ア
ンモンニヤ水トユウクスリデス。

サンノマセテ、ソレヲハキダサセルカ、又ハギユウニユウカ、ナマタマゴヲタクサンノマセルガヨロシイ。之ハドクヲケスタメト、ハイタリ、クダシタリスルノデ、イノナカヤチヨウノナカラアラウコトニナルカラデス。

六、ソツトウ

イロガアオクナツテ、タオレタトキニハ、キモノヲトイテ、アタマニ水ヲフキカケテ、キノツクヨウニシマス。コンナトキニムリニ水ヲマセルトイキガデキナクナルコトガアリマスカラ、キヲツケナケレバナリマセン。カオノイロヤ、クチビルノイロガアオク、ミヤクモヨクワカラナイヨウデ、テアシガツメタイトキニハ、マクラヲサセナイデネカシ、アタマノヒククナルヨウニシテオクガヨロシイ。カオガアカク、ミヤクガハイイトキニハ、マクラヲタカクシテ

四十二
ネカセ、アタマヲヒヤシテヤルコトガタイセツテス。

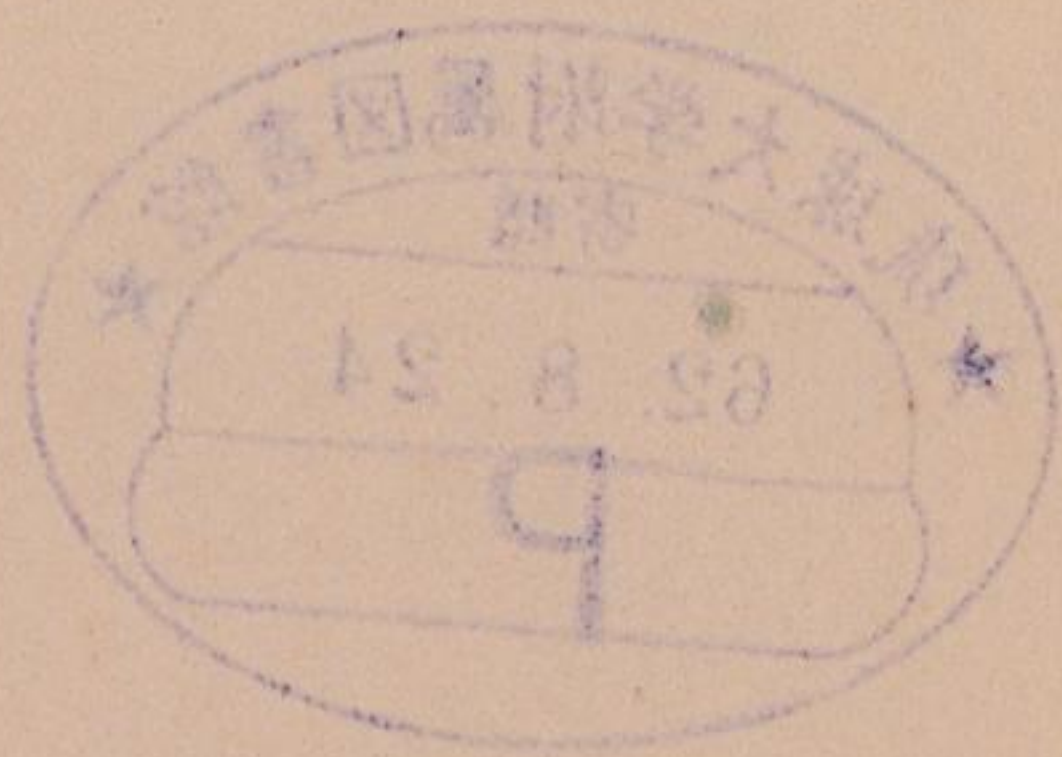
「アミーバ」赤痢流行について

キ ク チ

今回コロール島ニ流行シタ「アミーバ」赤痢ガ、ドンナニ恐ロシイモノデアツタカト云フコトワ、ミナサンヨクオワカリニナツタコトト存ジマス。ソレニ就テシミジミカンジタコトガアリマスカラ左ニ記シマス。
一、ナベ、カマ、サラ、ソノ他食器類ヲ使用シタアトテ屋外ニ放ツテ置キマスト恐ロシイ傳染病ノ媒介者タル蠅ハモチロン、鶏、豚ナドガ、ツツイタリ、ナメタリシマス。コレワスグニヨク洗ツテソレゾレ仕末ヲスルヤウニ心ガケヤウデアリマセンカ。
一、ソレカラ皆サンガ家ヲ空ニシテ外出シマシタアトテ家ノ中ニイツモ鶏ヤ豚ガ這入ツ

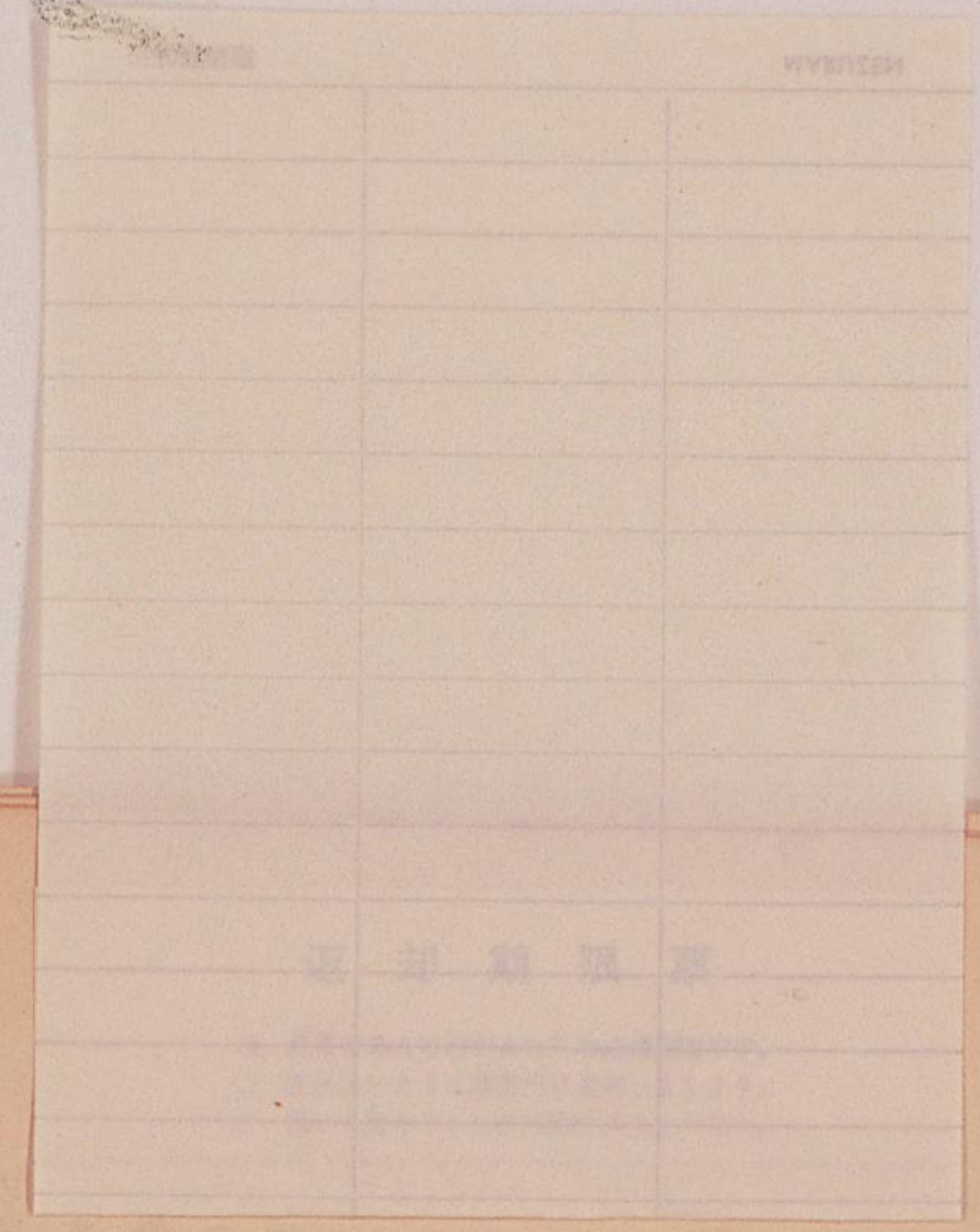
テイロイロナモノヲ、カキ廻シタリ、糞ヲシタリ、ソノ不潔ナコト、ソレハソレワ、ソツトスルヤウデス。コレモ面倒ナコトデワナイ、コレ等ノモノガハイラナイヨウニ、外出スルトキヲヨク出入口ヲ閉メルヤウニコレカラヨク注意シヤウデアリマセンカ。

(オワリ)



説明 ターゲット

この原本は
一部文書が
糊付けされています



昭和六年十一月二十日印刷
昭和六年十一月二十五日發行

(日の光第十號奥附)
(非賣品)

南洋廳内
編輯者 財團賜
發行所 南洋廳
代表者 松田一海
南洋群島パラオ島
印刷者 藤田虎吉
印刷所 南洋廳財務課



0000870081114

